

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2012年3月

第22回 ISO/TC 138 国際会議

1. TC 138 の構成

第22回 ISO/TC 138 国際会議（年次大会）が2011年10月24日～10月28日にアムステルダム/オランダにて開催された。

TC 138（プラスチック管・継手）は、日本が幹事国となっている。（表1）に構成を示した。TC 138にはSCが7個あり各SCにはいくつかのWGが、またTC直轄のWGも存在する構成となっている。

（表1）TC 138 の構成

セクション	内容	幹事国
TC 138	プラスチック管・継手	日本
WG 8*	管の基本寸法	-
WG 12*	管更生	-
SC 1	廃下水用プラスチック管・継手	フランス
SC 2	給水用プラスチック管・継手	スイス
SC 3	工業用プラスチック管・継手	イタリア
SC 4	ガス供給用プラスチック管・継手	オランダ
SC 5	試験方法・基本規格	オランダ
SC 6	強化プラスチック管・継手	オーストリア
SC 7	プラスチックバルブと補助器具	イタリア

* : TC 138 直轄の WG

SC1～SC4は管の用途別で区分されており、SC5は管に関する試験方法、SC6は強化プラスチックを材料とした管、SC7は管の周辺器具となっている。

2. TC 138 の活動状況

各SCの活動状況の指標として、今までの規格発行数及びこの1年間の審議件数を（表2）に示す。

SC2およびSC5の今までの規格発行総数が多いのに対して、この1年間の審議件数ではSC4（ガス管）が非常に多く活動が活発であることがわかる。また、直轄のWG12（管更生）も近年活発で着実に規格発行を行っている。日本は、WG12に対してはTC直轄のWGであることから、国際会議でも多数の委員が参加する等、注力している。一方、SC4に対しては、従来フォローが不十分であり、改善する必要がある。

TC 138は元来欧州中心であり、議論の場を広げる方策の一つとして、国際会議（年次大会）の開催場所を欧州と非欧州とで交互に設定している。2011年がオランダ（アムステルダム）、2012年がオーストラリア（シドニー）、2013年がノルウェー（オスロ）まで決定しているが、2014年（非欧州）は未定である。開催国の申し出が無ければ、幹事国の責務として、日本が2014年の開催国に立候補しようと考えた。

(表 2) 規格数及び審議件数

	規格数 1)	審議件数 2)
WG 8*	6	0
WG 12*	10	5
SC 1	35	3
SC 2	75	3
SC 3	9	1
SC 4	42	21
SC 5	85	11
SC 6	29	2
SC 7	11	0

* : TC 138 直轄

1) 2011-12-31 までの規格発行数

2) 1 年間(2011 年)の件数

(定期見直しは除く)

3. 第 22 回 TC 138 国際会議の概要

今回の TC138 国際会議では、開催された会議数が多く、例年、火曜～金曜の開催に対し、今回は月用～金曜で開催日が 1 日多くなった。これに対応して、出席者も多く、例年参加登録者が 70～90 名に対して、今回は 100 名を超えた。一度に多くのメンバーが集まり多くの会議が開催されることは、効率の面でも好ましい。日本からは TC138 議長および国際幹事を含め 12 名が参加した。

日本からの参加者は分担して主な会議に出席し、議論に参加した。WG12 (管更生) 関係ではいくつかの新規の規格開発の提案があった。

TC 議長と国際幹事が司会進行を行った諮問会議及び全体会議では、次の 2 件が重要な懸案事項となった。

①2014 年の TC138 国際会議の開催地としてケニアが立候補したので、日本、ケニアいずれを開催地にするか、事務局が決定することとした。

②TC138/SC6 と TC67/SC6C との間で規格の適用範囲の重複が問題となっており、ISO 中央事務局の仲裁等により解決する必要がある。

4. 今後の取り組み

2012 年 1 月に、国内 TC138 委員が集まり、今回の TC138 国際会議の報告をすると共に、今後の日本の対応を議論する予定である。

また、WG12 に関しては、年次会議以外で開催される WG 会議にも出席し積極的に規格作成に関わっていく方針である。

以上